

2022年
10月29日(土)
~30日(日)

ホームホスピス

多世代の
とも暮らし

が創る未来図

- 会場 ACU 札幌 大研修室 1614
札幌市中央区北4条西5丁目アスティ 45・16F
- 参加費 両日参加 5,000円 1日のみ参加の場合は 3,000円
- 定員 300名(会場参加 200名/オンライン視聴 100名)

講師によっては、オンライン登壇になる
こともあります。

10月29日(土) 12:00~ 受付

- 12:50~13:00 開会挨拶 市原 美穂 (全国ホームホスピス協会 理事長)
- 13:00~13:10 挨拶 尾形 武寿 (日本財団 理事長)
- 13:15~14:15 医療と福祉の未来予想図 中島 秀之 (札幌市立大学 学長)
- 14:20~15:20 地域共生社会の実現に必要なものは何か 宮本 太郎
(中央大学法学部 教授)
- 15:30~16:30 全世代社会保障構築会議と社会保障の将来 大島 一博
(厚生労働事務次官)
- 16:35~17:35 生きる力を支えるために 河 正子
(NPO 法人緩和ケアサポートグループ 理事長)
- 17:40~18:30 つながる時間 (会場のみ) — 交流を深めましょう

10月30日(日) 9:00~ 受付

- 9:30~11:30 多世代のとも暮らし
(教育講演) 山崎 亮 (studio-L 代表、関西学院大学建築学部 教授、コミュニティデザイナー、社会福祉士)
加藤 忠相 (株式会社あおいけあ 代表取締役・慶應義塾大学看護医療学部 非常勤講師)
- 11:30~12:30 【昼 食】
- 12:30~13:00 ホームホスピスの暮らし 市原 美穂
- 13:10~15:30 〈シンポジウム〉
ホームホスピスを北海道でどう育むか
コーディネーター：永森 克志 (医療法人社団ささえる医療研究所 理事長)
山田奈緒美 (NPO 法人とものむら 理事長) / 村松 司 (公衆衛生医師)
松山 雅一 (NPO 法人かしわのもり 代表) / 半澤 博恵 (ホームホスピス北海道 代表)

主催 一般社団法人 全国ホームホスピス協会

運営 全国ホームホスピス協会事務局/ホームホスピス北海道

お問合せ TEL 0985-65-8087 / FAX 0985-53-6054 <https://www.homehospice-jp.org>

Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

講師、パネリスト紹介



中島 秀之（なかしま・ひでゆき）
1983年、東京大学情報工学専門課程修了（工学博士）。同年電総研入所。2001年産総研サイバーアシスト研究センター長。2004年より公立はこだて未来大学学長、理事長。2016年、同名誉学長、東京大学大学院情報理工学系研究科先端人工知能学教育寄付講座特任教授。2018年より札幌市立大学理事長・学長就任。（株）未来シェア取締役会長。2019年、「情報化促進貢献個人等表彰」経済産業大臣賞受賞。



大島 一博（おおしま・かずひろ）
1964年、熊本県生まれ。1987年、東京大学法学部を卒業。1986年、国家公務員採用1種試験（法律）に合格。翌年4月、厚生省に入省し、厚生省大臣官房人事課に配属。2018年7月、厚生労働省老健局長に就任。2020年9月、厚生労働省大臣官房長に就任。2021年9月、政策統括官（総合政策担当）に就任。2022年6月より厚生労働事務次官。



加藤 忠相（かとう・ただすけ）
神奈川県藤沢市生まれ。1997年、東北福祉大学社会福祉学部社会教育学科（当時）を卒業。卒業後、3年間の高齢者施設勤務を経て2000年、株式会社あおいけあを設立し、現在、小規模多機能型居宅介護「おたがいさん」やグループホーム「結」など高齢者に介護福祉サービスを提供する4つの施設を運営。



永森 克志（ながもり・かつし）
慈恵医大を卒業後、佐久総合病院の総合診療で学び、夕張市の財政破綻後、村上先生と地域包括ケアシステムを構築、医療福祉のモデルケースとなった。現在、まちづくりを理念とした医療法人で、訪問診療、看護、居宅など運営している。岩見沢では、シェアハウス、シェアオフィス、コミュニティスペースをごちゃ混ぜにした、ささえるさんの家や1万坪の農地を耕すNPO法人ともむらなども運営。



村松 司（むらまつ・つかさ）
公衆衛生医師。1974年、北海道釧路市にて出生。アマチュア無線の移動運用や長距離サイクリングから北海道の田舎の魅力に目覚め、自治医科大学入学。道内のへき地・離島等で14年間一般・消化器内科医として活動したのち、行政医師に転じ現在まで一貫して道内で活動を続ける。趣味は5,000kmを超える超長距離ドライブ、ジャズドラム演奏と、いわゆるオタ活。第1回村上智彦賞受賞。



半澤 博恵（はんざわ・ひろえ）
介護福祉士・看護師。病院・高齢者施設・居宅介護看護事業所等に勤務。令和2年度日本財団在宅ホスピスプログラム 在宅ホスピス実践リーダー養成研修を修了。令和3年任意団体ホームホスピス北海道を有志と共に設立。現在、北海道にホームホスピスを開設する準備を進めながら、暮らしの保健室「ほほほっ」を定期開催するなど地域活動を展開している。



宮本 太郎（みやもと・たろう）
1958年、東京都生まれ。政治学博士。立命館大学政策科学部教授、北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター長、日本比較政治学会副会長、内閣府参与等を歴任。2013年4月より、中央大学法学部教授。社会民主党の学習会でも講演し、同党の機関紙「社会新報」にも掲載されたことがある。1993年よりストックホルム大学客員研究員。



河 正子（かわ・まさこ）
1975年、東京大学医学部保健学科卒。看護師。虎の門病院、救世軍清瀬病院（ホスピス）での臨床経験等を経て、1996～2006年、東京大学大学院ターミナルケア看護学分野常勤講師。在任中にスピリチュアルケアの共同研究に携わる。2008年、NPO法人緩和ケアサポートグループを設立。東久留米市で「ふらっとカフェ」「ふらっと相談室」「緩和ケア学習会」などを開催中。



山崎 亮（やまざき・りょう）
studio-L 代表。関西学院大学建築学部教授。コミュニティデザイナー。社会福祉士。大阪府立大学大学院および東京大学大学院修了（工学博士）。建築・ランドスケープ設計事務所を経て、2005年 studio-L を設立。地域の課題を地域に住む人たちが解決するためのコミュニティデザインに携わる。まちづくりのワークショップ、住民参加型の総合計画づくりなどに関するプロジェクトが多い。



山田 奈緒美（やまだ・なおみ）
2012年、ささえる医療クリニック入職。「普通のおばちゃん、お姉ちゃんがまちをつくる」という村上智彦先生の理念のもと、クリニック事務長、法人本部事務局長などを務める。2020年、看護学校に入学。2022年、59歳で准看護師となり、訪問看護師1年生として奮闘中。2020年、「NPO法人ともむら」理事長に就任。まちづくりの理念を引き継ぎ、皆が楽しく経験し、学べる場づくりを行っている。



松山 雅一（まつやま・まさかず）
1994年に憧れの地・北海道（帯広市）へ移住。建築大工を経験し、鹿追町への移住を機に個人事業で建築業を始める。介護保険での住宅改修などを経験。2002年に看護師の妻とNPO法人を設立し、翌年に訪問看護ステーションを開設、当初より代表理事を務める。昨年、日本財団「みらいの福祉施設建築プロジェクト2021」のレンガの家プロジェクトに応募し採択。11月より着工予定。



市原 美穂（いちばら・みほ）
2004年、宮崎市内の空家を利用して、認知症や末期がんなど困難な条件が重なり行き場を失った人、5、6人がとも暮らしをするホームホスピスを開設。地域の中で最後まで暮らし、人の尊厳をとり戻すケアの実績と民家（空家）を利用し、地域とのつながりを大切にす理念に共感し、現在、全国各地でホームホスピスが展開している。

■申込方法：協会ホームページから「こちらのPassMarket イベントページから」をクリックし、PassMarket からチケットを購入。

■締切：10月14日（定員になり次第、申し込みを締め切らせていただきます）

参加費の入金確認でき次第受付完了となります。申し込まれた方の都合でキャンセルされた場合、返金はできません。開催についてのお知らせは、ホームページやSNSをご覧ください。

■オンライン参加の方：研修参加のためのURLやパスワードはメールにて連絡いたします。

事前に seminar@homehospice-jp.org が受信できるよう設定をお願いします。

■会場参加の方：宿泊等は、各自で手配してください。

*ご来訪時は検温、マスクの着用をお願いします。

*37℃以上の発熱がある方、または発熱が続いている等風邪の症状がある方、身近に新型コロナウイルス感染症の患者や濃厚接触者がいる方、その他体調に不安がある方は来訪をお控えください。

*緊急事態宣言等によりオンラインのみの開催へ変更させていただく場合は、個別連絡をいたします。



全国ホームホスピス協会
ホームページ

〈お問合せ先〉

全国ホームホスピス協会事務局 〒880-0913 宮崎市恒久2丁目19-6

TEL：0985-65-8087（月～金/10:00-17:00） FAX：0985-53-6054 e-mail：info@homehospice-jp.org